

企業・事業所と共に歩むまち すその

豊かな地下水や交通の利便性などの優位な立地条件

工業化の幕開けは、昭和 35 年の「裾野町工場設置奨励条例」に始まり
ます。水と緑豊かな当市は、農林業から工業中心のまちへと変わりました。

渉外課

☎995-1858

市の産業

昭和 30 年代までは農林業中心の産業でしたが、北西部の火山灰土を中心にした痩せた土地のため、その生活は決して楽ではありませんでした。昭和 34 年の矢崎部品(株)の立地を期に、昭和 35 年「裾野町工場設置奨励条例」を制定。その後に工場・企業進出が相次ぎ、現在では工業中心のまちとなりました。

工業のまち「裾野」

当市は、広大な土地、豊かな地下水、富士山をはじめとする素晴らしい景観など、工場進出の条件を十分備えています。このような優位な立地条件から矢崎部品(株)、三菱アルミニウム(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ自動車東日本(株)など大手企業の研究所・工場の進出がなされました。昭和 44 年に東名高速自動車道の開通、昭和 63 年には東名裾野インターチェンジが完成するなど交通基盤が整備されました。首都圏や中京圏への輸送時間が大幅に短縮されるなど、より利便性が向上したことで、(株)ヤクルト本社が進出しました。平成に入り、キヤノン(株)や矢崎総業(株)の研究開発部門が進出するなど、知識集約型産業の立地が相次ぎ、市民の新たな職場が広がっていきました。

当市にはこれらの関連企業のほか、独自の技術を持った企業も多く立地し、当市の工業を支えています。この結果、平成 22 年度国勢調査の第二次産業就業人口は、市就業人口全体の 38%を占め、全国平均の 28.2%を 10 ポイント近く上回るまでになりました。今後は、「企業立地・誘致の推進」「工業用地の確保」「中小企業の育成」「企業団体への支援」「勤労者福祉環境の充実」を主要施策とし、さらなる産業の発展を進めていきます。



企業立地の状況

【第 1 期】昭和 30 年代後半から 40 年代前半に今日の市の産業の骨格を成す企業が立地

【第 2 期】昭和 60 年代前半に裾野工業団地を含めた企業立地

【第 3 期】富士裾野、新富士裾野工業団地への企業立地



【操業した主な企業・工場など】

昭和 34 年 6 月	矢崎部品(株)裾野製作所 [5.8 万㎡]
昭和 37 年 1 月	三菱アルミニウム(株)富士製作所 [22 万㎡]
昭和 41 年 11 月	トヨタ自動車(株)東富士研究所 [201 万㎡]
昭和 42 年 5 月	トヨタ自動車東日本(株)東富士工場 [26.4 万㎡]
昭和 46 年 11 月	倉敷紡績(株)裾野工場 [6.7 万㎡]
昭和 61 年 2 月	(株)ヤクルト本社 富士裾野工場 [20.4 万㎡]
平成 8 年 4 月	キヤノン(株)富士裾野リサーチパーク [27.5 万㎡]
平成 10 年 9 月	矢崎総業(株)Y-CITY [16.9 万㎡] (矢崎部品 5.8 万㎡を含む)
平成 17 年 8 月	トヨタ自動車東日本(株) 東富士総合センター [4.1 万㎡]

◆富士裾野工業団地(34万㎡)

平成 2 年 11 月	住友理工(株)富士裾野製作所 [12.4 万㎡]
平成 2 年 4 月	(株)不二家 富士裾野工場 [7.2 万㎡]
平成 2 年 7 月	(株)アルバック富士裾野工場 [10.6 万㎡]
平成 9 年 2 月	藤壺技研興業(株)裾野総合工場 [3.4 万㎡]

◆新富士裾野工業団地(13.6万㎡)

平成 21 年 7 月	トヨタ自動車東日本(株)須山工場 [3.1 万㎡]
平成 21 年 8 月	トヨタ紡織(株)富士裾野工場 [6 万㎡]
平成 22 年 8 月	三州エッグ(株)富士裾野工場 [2.1 万㎡]
平成 21 年 8 月	(株)旭洋工業製作所須山工場 [2.2 万㎡]

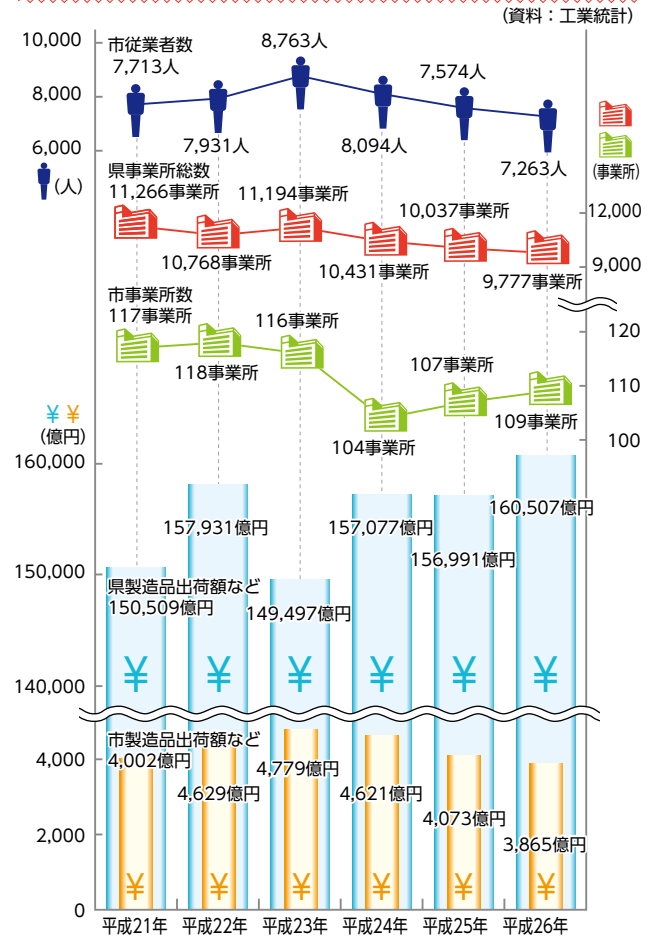
※企業名は平成 28 年 10 月現在で表示



市の沿革

昭和 27 年 4 月 1 日	小泉村、泉村が合併し裾野町へ（後に深良村・富岡村・須山村も加わる）
昭和 35 年	工場設置奨励条例を制定
昭和 40 年	東駿河湾工業整備特別地域に指定
昭和 46 年	地方自治体 3 万人市制の特例で裾野市が誕生
昭和 51 年	都市計画法に基づき市街化区域、市街化調整区域の指定
昭和 63 年	東名裾野 IC、国道 246 号バイパスが開通
平成 23 年	第 4 次総合計画を策定し、「企業誘致の推進」「工業用地の確保」など、さらなる産業の発展を目指す
平成 27 年	市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定

事業所数・従業員数・製造品出荷額など (従業員 4 人以上事業所)



開設 50 周年 ～トヨタ自動車(株)東富士研究所～

富士山の裾野に位置するトヨタ自動車(株)東富士研究所は、当市がまだ裾野町であった昭和 41 年(1966 年) 11 月に開設され、今年で 50 周年を迎えます。開設された当初は「東富士工場」という名称で、一周 3.7 km のテストコースを利用した自動車性能試験が中心でした。昭和 46 年、裾野町が市制を施行した同年に「東富士研究所」と名称を変更し、その後トヨタ自動車の研究・開発拠点として発展、現在では 3,300 人を超える社員の方が 5 年後、10 年後の新たな技術開発に日々取り組んでいます。ハイブリッド車や燃料電池車の研究開発も、東富士研究所で行われていました。世界に大きなインパクトを与えたこれら技術開発が当市で行われていたとは驚きです。地域に密着した活動も数多くされています。毎年夏休み期間中に「トヨタサマースクール」として市内の小学 5 年生を対象とした見学会を開催しています。中でもバスによるテストコースの走行は子

どもたちに大人気です。子どものころ、広大なテストコースを走行した記憶のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。8 月には「富士山すその阿波おどり大会」で「トヨタ連」として多くの社員の方が参加し、迫力ある踊りで観客を楽しませてくれます。その他、研究所周辺の美化活動を実施するなど、地域貢献にも力を入れています。トヨタというと別世界のように感じている市民の方も少なくないと思いますが、同じ市の仲間として身近に活動しています。



今年で開設 50 周年を迎えたトヨタ自動車(株)東富士研究所が更なる 50 年に向けて活躍できるよう、市も「企業と共に成長するまちすその」として取り組んでいきます。